

(教育委員会用)

平成29年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	世田谷区教育委員会
-----	-----------

I 概要

1 事業の概要

<スポーツ>

○光明学園を会場とした「ボッチャ」の交流及び共同学習

- ・各交流校とボッチャを通じた交流及び共同学習を行った。

回数等は以下のとおりである。

- 代田小学校 5回<4.5.6年各2回ずつ(1回は中止)>
- 松原小学校 1回(4年)
- 梅丘中学校 1回(1年)
- 奥沢小つくし学級・松沢小きはだ学級 1回
- 東深沢中学校 1回(特別支援学級1~3年)

- ・会場は光明学園体育館を使用。どの交流も前半に親睦を深める活動をし、後半に、児童生徒同士が交流できるような形でパラリンピック公式種目「ボッチャ」を行った。

○光明学園教員による出前授業の実施

- 代田小学校 土曜日のPTA活動
- 東深沢中学校 出前授業

○予算の活用

- ・ボッチャボールセット、2セット購入。
貸出し用については、光明学園で保管し、要請があればいつでも貸出すことになっている。

○運営協議会の開催

- ・平成29年3月8日実施 今年度の交流の様子報告、意見交換、次年度に向けて 等

2 事業の成果

＜スポーツ＞

- ・「ボッチャ」の競技に継続して取り組んでいることで、以下のような成果があがった。
 - (1) 重い障害のある児童・生徒でも道具等を工夫することで活動できる競技であり、ランプという投球台を使うことで、光明学園の児童生徒も少しの手の動きでボールを投球することができた。
 - (2) やさしい競技で、初めて取り組んでも、ルールを理解して楽しめた。初めて取り組んだ児童もすぐにルールを理解し、楽しく競技できた。
 - (3) 光明学園の教員による出前授業は、今年度新たに中学校で実施した。特別支援学級の生徒が、通常学級の生徒の前で競技の模範となる場面を設定するなどしたことで、障害者理解を進めるいい機会となった。
 - (4) パラリンピックの正式種目であり、来たる 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて児童生徒が興味関心をもつきっかけとすることができた。
- ・実施上の工夫としては、
 - (1) については、交流校の児童生徒がアシスタントになることで、光明学園の児童生徒と協働して競技をすることができ、交流を深めることができた。
 - (2) については、競技ボッチャのルールではなく、簡略化したルールも設定したことで、より競技を楽しむことができた。
 - (3) については、交流校の管理職と事前に打ち合わせをし、意図的にそういった場面を設けたことで、より障害者理解を図ることができた。代田小学校での実施は、2 回目ということもあり、昨年度に増して、充実した活動につながられた。
 - (4) については、今年度、光明学園で取り組んでいる「夢・未来プロジェクト」活動を紹介した。パラリンピアン的車いすバスケットの選手が来校した時の様子を紹介したりすることで、オリンピックだけでなくパラリンピックへの関心を高めることができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

<スポーツ>

●交流から共同学習へ

「交流から共同学習」に向けては、毎年少しずつ進んできている。更に進めていくために、正式なボッチャ競技に近い内容にしていくことで、課題解決につなげていくことも考える必要がある。

また、「ボッチャ」については、成果も見られ、交流及び共同学習の活動としては有効であることがわかったが、児童生徒がより主体的に交流していくためには、他の活動へと広げていく必要があると考える。今年度は、ハンドサッカー（東京都の肢体不自由特別支援学校で取り組んでいるスポーツ）のシュート合戦やパラバレーン（大きなバレーンを使った活動）など、障害がある児童・生徒と、通常学級の児童・生徒が、共に楽しみながら交流できる活動に取り組んでみた。こういった、活動を模索していきたい。

●出前授業の実施

出前授業については、今年度2校で実施でき、新たな可能性が見えてきた。ボッチャが全国的に注目される中、小・中学校で取組学校が増えてきているので、今後、さらに増えることが予想される。光明学園では、今年度からボッチャを部活動として正式に位置づけ、活動を始めた。東京都の特別支援学校では、体育連盟などを中心に、ボッチャの指導者を育成する取組を始めている。まだまだ、指導できる教員は、多くはないが、指導者講習会を行うなど、組織的に指導者を育成していくことが、継続した課題である。